平成２６年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492700024	事業の開始年月日	H23・12・1１
		指定年月日	H23・12・1
法人名	株式会社　三浦中央ケアサービス		
事業所名	小規模多機能型居宅介護　みうらうみ		
所在地	（　238-010１　） 神奈川県三浦市南下浦町上宮田1738-1		
サービス種別 定員等	■　小規模多機能型居宅介護	登録定員　25 名 通い定員　15 名 宿泊定員　9 名	
	□　認知症対応型共同生活介護	定員　計　名 ﾕﾆｯﾄ数　ﾕﾆｯﾄ	
自己評価作成日	平成27年3月11日	評価結果 市町村受理日	平成27年8月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた地域、我が家で今までと変わらない生活の継続ができるように、利用者の個別ニーズを丁寧に汲み取り、それに応えて行く事を旨としている。　通いサービスは集団ケア的面が見受けられがちであるが、その中で、個別ケアという視点を重視し、利用者一人一人の時間の流れを大切にしている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地　横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年3月23日	評価機関 評価決定日	平成27年6月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】
この事業所は、京急線の三浦海岸駅から徒歩5分程の幹線道路に沿った高台にあり、海岸までは徒歩15分程のところに位置している。地域医療を行ってきた医院の2階を改装した事業所で、居間は三方に窓があり明るく、海が一望できる。調査日の利用状況は、訪問2名、通い8名で（宿泊は利用者なし）、利用者がゆったりと過ごしている様子が確認できた。

【医療と介護の連携】
利用者の大多数が、事業所の協力医である併設医院をかかりつけ医として受診している。運営法人は別であるが、階下の診療室とは扉1枚で往来できる。看護師による健康管理や週1回の歯科医の訪問診療、容体変化に対応した他医療機関との連携もなされており、地域で安心して暮らせるように支援している。

【個別の要望の実現】
「カラオケがしたい」「寿司が食べたい」など、利用者の要望に対して歌の時間を設けカラオケをしたり、行事食に寿司を導入するなど、個別の要望に沿った対応をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ⅰ 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
Ⅴ アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護　みうらうみ
ユニット名	

Ⅴ　アウトカム項目

No.	項目		選択肢
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1，ほぼ全ての利用者の
			2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1，ほぼ全ての家族と
			2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
			2，数日に1回程度ある
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1，大いに増えている
		○	2，少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1，ほぼ全ての職員が
			2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての家族等が
			2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

自己評価	外部評価	項　　　　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位考え方を基本として当事業所の理念「住み慣れた三浦…いつもの生活の場所で安心して年をとってもらうために“その人らしい生活”に寄り添うケアを実践している。	事業所の理念のほかに毎年フロア目標を掲げている。4月の職員会議で職員に説明し、居間へ掲示して職員間で共有し、日々のケアの場面で実践につなげられるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域つながりを可能できるように自治会との連絡調整に努め、今後、自治会に加入し行事に参加するよう努めている。また、平成２６年度「みうら市民まつり」に初参加して地域との交流を図った。27年度実施に向けて保育園児との交流も進めている。	運営推進会議に参加している自治会役員を通して、地域の行事などを把握している。今後は、自治会の加入に努める意向である。舞踊、手品、紙芝居などのボランティアが来訪し交流している。保育園児との交流実現に向け話し合いを進めている。	自治会への加入など、日常的な地域の方とのつながりを深めていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に、利用者の作品の展示や、訪れた住民に事業所の説明をしている．市民児協、ボランティア、との交流を積極的に進めている。上記同様にまつりに参加して作品展示した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２ケ月に１回開催し、事業所からの一方的な報告でなく、各委員より意見をもらっている。運営推進会議での意見は職員間で共有し、実現できるようにしている。	運営推進会議は、家族や地域の代表、市や地域包括支援センターの職員、民生委員が参加している。今年度は6回、奇数月に開催し事業所の活動報告などをしている。参加者の意見を活かし、「みうら市民まつり」に参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス提供を行う上で、何か少しでも疑問等がある場合は、その都度、市担当者へ連絡を取り、保険者担当より助言をいただき、協力関係を築けている。	市の高齢福祉課の担当者と情報交換を行っている。市が主催する虐待防止などの研修に参加している。神奈川県小規模多機能型居宅介護事業者連絡会に参加し、会員及び行政職員と情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入口の施錠は開放して、見守りで対応している。不穏で落ち着かない利用者には、マンツーマン体制で見守り対応している。常にご利用者の意思・人格を尊重たケアを行っている。また、出入口にセンサーを設置する等工夫しております。また、マニュアルを使って職員会議に於いて勉強会をして周知徹底している。	身体拘束廃止のマニュアルをもとに研修を行い、職員に理解を促している。玄関は、夜間を除き開錠している。市への確認及び家族の了解のもとセンサーを設置して、職員がすぐに対応できる体制を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員に高齢者虐待防止法について書面で掲示し、朝礼・終礼時に伝達・話し合い職員全員でご利用者の身体を監察いて、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の権利擁護担当者と随時、連携している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時には、十分時間をとり、サービス内容、利用料金、特徴、事業所としてのケアへの考えをご理解いただけるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者との時間を大切にし、ご家族には連絡帳を活用してご意見・ご要望をお聞きして、そのご意見等を職員会議で意見交換して運営に反映させている。 ・年１回アンケートを実施して利用者・ご家族の意見を集約して反映させている。	利用者の様子は、連絡帳で家族などに伝えている。1月に「みうらうみ通信」を創刊しており、今後、季刊発行を目安に利用者の様子を伝える意向である。意見や苦情の申し出ができることは契約時に伝えている。「カラオケがしたい」「寿司が食べたい」との利用者の要望を反映し、歌の時間や行事食で実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に、職員とのコミュニケーションを取り、また職員会議(1回/月）意見・提案を尊重して、良いケアに反映させている。	事務長は年度初めの面談で、管理者は日々の申し送りや月1回の職員会議などで、職員の意見を聞いている。職員の「折り紙をリハビリに活用してはどうか」などの意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時利用者のニーズに合わせた職員の調整、確保、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少人数の勤務体制なので、随時のミーティングや日々の業務中で情報を共有している。また事業所で様々な研修会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	三浦市が主催する介護保険事業対象にした会議に積極的に参加し、情報交換を行っている。また、他の２小規模多機能型居宅介護事業所と常に情報交換をしている。また、神奈川県小規模多機能居宅介護事業者連絡会に極力参加し情報収集して、サービスの質向上に努めている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時には、ゆっくりと時間をとった傾聴を心がけ、信頼関係の構築をしていく中で、家族、事業者、その他社会資源等で、できることを話し合っている。		

自己評価	外部評価	項　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には直接的な対応（相談）もしながら困りごとの解決に向けた色々な方法を一緒に考えながら信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ニーズに即応できるものは対応し、できなくとも、他関係等と連携をとり、あらゆる相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者個々の好みや、趣味、特技等を聞き取り、ときには利用者から職員が教わる場面も作るよう工夫して、助け合い・ふれあいの機会をつくれるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の送迎時や連絡ノートで、家族とのコミュニケーションを心がけ、信頼関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の延長線上のように、訪問者（家族、友人）も自然に事業所として受け入れ、地域において、継続的な交流ができるよう支援している。	アセスメントの実施や家族の協力を得て、利用者のこれまでの関係の把握に努めている。家族が訪ねて来た際に接待をする、年賀状を出すなど、馴染みの関係を維持するための支援を行っている。つつじの時期に馴染みの湘南国際村に行く予定である。	

自己評価	外部評価	項　　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個々の性格等を理解し、その場の雰囲気を感じ取りながら歌を歌ったり会話する等して、共に楽しみ励まし合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方においても、介護の相談窓口として、利用者やご家族に連絡を取るように心がけている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段、何げないいつもの会話の中でも、表情やしぐさからも、本人ニーズを探るようにして、会話の時間を多く設けている。ご利用者が孤立しにように周囲の観察も怠らないようにしている。	アセスメントや家族の話などから利用者の意向を把握している。「裁縫が好き」「犬の散歩がしたい」など、把握した意向を職員が共有している。把握が困難な利用者も家族の話や日ごろ捉えている利用者の全体像をもとに、快・不快の表情や態度を見逃さぬようにし検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに留意しつつ、ご利用者やご家族の思いを尊重した上で、出来るだけ正確に詳しくその方固有の暮らしが把握できるようお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者やご家族や担当職員等から情報を収集し、実態を確認することで現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所だけが一方的に企画することではなく、ご利用者やご家族等の意見を参考に研修会（職員会議）検討して計画を作成している。	本人や家族から「リハビリをして自宅で生活したい」「転倒の危険を少なくしてほしい」などの要望を聞き取り、介護計画を策定している。モニタリングは、利用開始後1週間から1ヶ月で1回目を、その後は1～3ヶ月に1度実施している。状態の変化が見られた際は、看護師などの関係者とも話し合い介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、ケアカンファや申し送りで職員間で共有をし、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族のニーズに合わせて、通院介助や送迎や、緊急時の訪問やお泊り等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	随時或いは定期的に地域のボランティアに、歌・踊り・話し相手・紙芝居・音楽演奏等していただきご利用者楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院・緊急時にはその都度柔軟に職員対応している。	以前からのかかりつけ医への受診は家族が対応している。家族の希望があれば通院に同行することもある。事業所の協力医である併設医院をかかりつけ医としている方が多い。歯科の訪問が毎週ある。	

自己評価	外部評価	項　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や身体の変化に築いた時は看護師に相談し指示をあおぎ、又、緊急時はご家族に連絡を取るなど支援している。必要に応じて介護職員と看護職員が同行訪問している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の相談室や病棟とは情報交換をしている。入院時には、職員が見舞いに行き、家族とも情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時のご利用については契約時に説明し、看取りについて関係機関等の連携が図ることが困難なため実施しない。	入居時に、当事業所では終末期の相談・支援はするが、看取り介護は実施しない方針であることを本人や家族に伝えている。また、職員もこの方針を共有している。今後は、契約時に「看取り介護及び重度化ケアについて」の文書で利用者などに説明する意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して、職員研修会で職員に周知徹底を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成して職員に周知徹底を図っている。年２回の防災訓練を実施している。尚今年度、スプリンクラーを設置して災害時に備えている。	消防署立会のもと、年2回通報訓練や火災を想定した訓練を実施している。年2回のうち1回は併設の医院と合同で行っている。地域との協力体制はまだ築けていない。非常災害時の備蓄として3～4日分の米や水などを準備している。	予定されている併設医院との合同訓練などの機会を活用し、災害時の地域との協力体制を築くことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライバシーを尊重し、尊敬の念を持って接し、不快感を与えない支援を心がけている。	「呼びかけはフルネームで行う」など、敬意をもって利用者に接するとの方針を職員が共有し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。「立ち上がったら、トイレのサイン」など、利用者ごとの情報を職員間で共有している。個人情報に関する書類は施錠し管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや要望を汲み取るために、寄り添い耳を傾け自己決定していただけるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活状況に応じた通いのスペースの中で入浴・食事・レクリエーションなど希望に添った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後には、ご利用者が持参した服、下着に着替えていただき、また、ご希望があれば訪問美容・理容で対応し希望の添った支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の希望を聞いて色々工夫して、食べる意欲を持ってもらえるようにし、また、和めるBGMを流している。	昼食時、職員は見守りや介助に専念し食事は一緒にしていない。週に1回程度、管理者が検食を兼ねて利用者と同じ食事をしている。専門業者の弁当を温め、具だくさんの味噌汁を作り提供している。利用者は、テーブル拭きや夕食作りの手伝いなどを行っている。行事食で好みの寿司を用意し食事を楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	サービス利用中の食事摂取量や水分量を記録することによって栄養や水分が確保できているかを把握し、医療からに指示に準じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操、食後の口腔衛生を欠かさず行っている。定期的に歯科医と連携を図り口腔ケア充実させている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間等をチェックし記録することよって、排泄パターンを把握し、失敗なく、オムツのご利用者でも出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。	利用者の様子や時間を目安に排泄パターンを把握し、誘導して排泄の自立を促している。トイレ誘導することで、失敗の回数が減少した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物での改善アドバイスや、運動や腹部マッサージを行って予防に取り組んでいる。また、家族と密に連絡を取り、自宅での排便チェック・在宅での看護士（訪問）対応にて排便コントロールを実施。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個別での入浴を実施、限られた時間の中で常に声かけし身体の観察しながらリラックスして入浴できるようにしている。	概ね午前中に入浴している。入浴を好まない利用者には、時間を変えて入浴を促している。入浴剤やゆず湯などでリラックスして入浴を楽しめるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項　　　　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の生活リズムや、体調に合わせた休息を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、看護師からの指示、家族との連絡等により、本人の状況を見ながら支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を知り、ご利用者個々のやる意欲を引き出せるよう、決めごとではない柔軟でさりげない支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年次計画に基づいて、ご利用者のご希望に添える外出（花見・食事・ドライブ）するよう支援している。　ご要望把握については、年１回利用者アンケートを実施して収集してます。外出行事の際家族の参加も促している。また、デイサービス中に高天候時に買い物・散歩・ドライブとご利用者の希望を取り入れてその都度支援している。	利用者の希望により、スーパーマーケットでの買物や散歩に出かけている。利用者の状況や体調により、近くの海まで散歩したり、車で出かけたりと、行先を変えている。年間行事予定表を作成し、花の国などへ季節の花見に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、買い物・通院などご家族と連絡を取り合って支援している		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、電話が出来るように支援している。今年度からご利用者がご家族に年賀状を出す支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある部屋の飾りつけ心がけている。例えば、フロアーのボードに華やかな飾り付けや季節の花を生けるなどの工夫をしている。	居間に花を飾り季節感を採り入れている。室温に留意し脱衣所にストーブを置いたり、居間などに加湿器を置き利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の座席を配慮したり、ソファを設置することで思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの際は、常に同じ部屋を利用し、ご利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。また、家で使い慣れた物を自由に持ち込めるよう支援している。	事業所の備品は、空調機と照明、ブラインド、ベッドである。居室はフローリングと畳み敷きがある。泊りの際利用者は、パジャマやラジオなどを持ち込んでいる。利用する部屋を固定化し、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者個々の趣味嗜好を良く知り、その方が出来る作業（塗り絵・手芸等）をして楽しく自立した生活が送れるよう工夫している。		

目　標　達　成　計　画

事業所名　小規模多機能ホーム「みうらうみ」

作成日　平成27年8月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策（地域連携）に関して	消防法に基づき年二回三浦中央医院と合同避難訓練を実施し、地域協力体制を築く。	二回の非難訓練を機会に当該自治会に訓練実施の旨を周知して調整連携を図り協力体制を築いていく。	次年度
2	2	地域との連携に関して	自治会の会合に参加できるよう努める。	推進会議の委員長（自治会長）と調整して自治会参加に努めていく。	随時

三浦市
保健福祉部
27.8.-7
高齢介護課